

質問調査結果から見られる改善のポイント

Point ①

「個別最適な学び」「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から授業改善が進められています。しかし、児童生徒がそう感じている割合は教師より少ない実態があります。特に、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と感じている児童生徒の目線に立って、授業を振り返る必要があります。

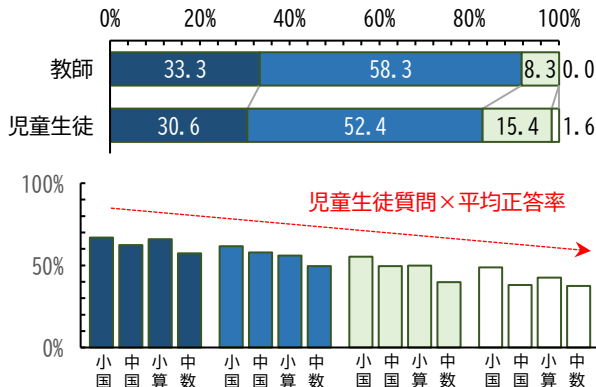
*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『学ぶ喜び 学び合う楽しさ』の実感できる授業づくり①の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

◆小学校/中学校 学校質問
●小学校第6学年/中学校第3学年 児童生徒質問

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

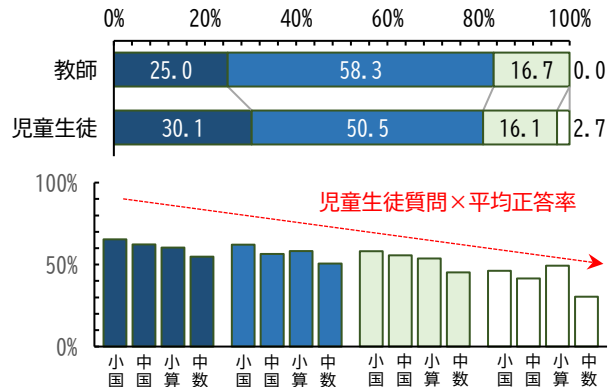
◆一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しているか

●自分で学び方を考え工夫しているか



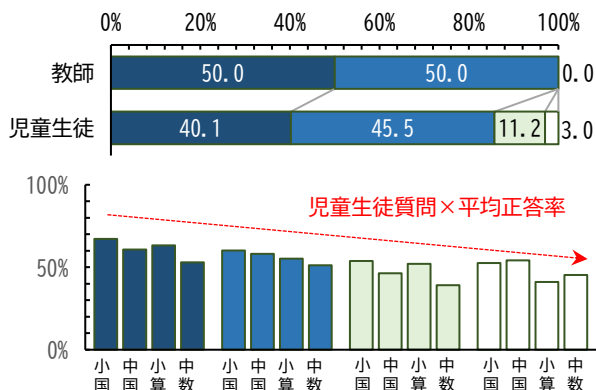
◆各教科等で身に付けたことを生かす機会を設けているか

●授業で学んだことを、次の学習等に生かすことができているか



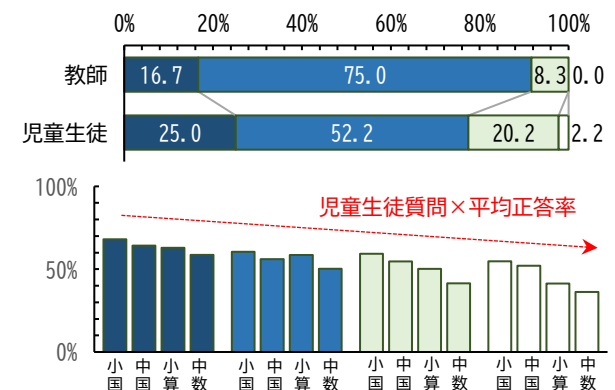
◆他者と話し合ったり、異なる視点から考えたりできるように学習課題や活動を工夫しているか

●話し合う活動を通じ、考えを深めることができているか



◆課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れているか

●自分の考えをまとめる活動を行っているか

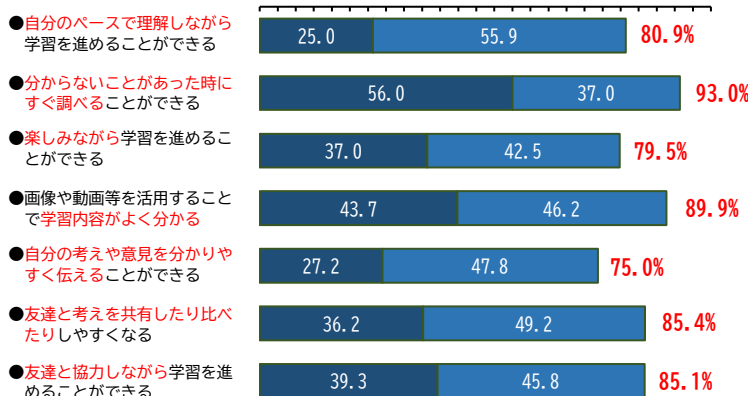


Point ②

児童生徒は、学習場面におけるICT機器の活用に対して効力を感じている実態があります。美濃加茂市情報教育委員会での研修内容を、自校で幅広く共有し実践するなど、ICT機器をこれまでの授業実践と最適に組み合わせる活用を一層工夫する必要があります。

*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『学ぶ喜び 学び合う楽しさ』の実感できる授業づくり①の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

学習場面におけるICT機器の活用に対する児童生徒の意識



市情報教育委員会では、学習場面におけるICT活用について効果のある実践事例の蓄積を行っています。令和5年度は、情報教育主任の先生からeライブラリを活用した国語科の授業実践、SKYMENU等を活用した算数科の授業実践を提供していただきました。どんどん参考にしましょう。



指導・援助・留意点

【研究内容①「導入の工夫」】

【ICT活用】Prezi

・児童が着目した2人をピックアップして比較し、AとCの速さを比べられないことから課題に必然性をもたせると共に、時間か道のりのどちらかをそろえれば比較できるという見通しをもつことができるようにする。

【ICT活用】eライブラリ

・eライブラリの確認テスト「単位量あたりの大きさ」でつまづきが見られた児童を把握し、指導援助する。

【ICT活用】SKYMENU

（個人追究）

・SKYMENUの発表ノートに考えを記述する。班での追究では、タブレットの発表ノートを基に交流する。つまづきが見られる児童には、発表ノートのヒントページを示す。

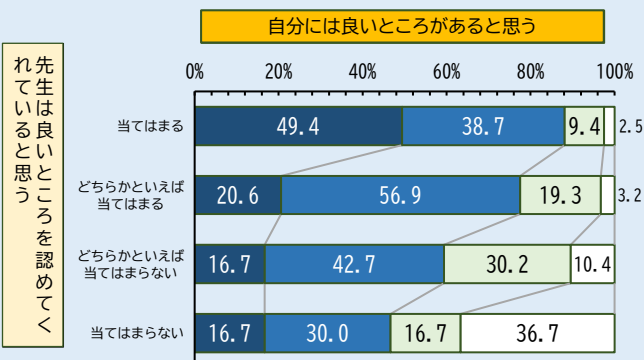
公開授業学習指導案から抜粋
R6.1市情報教育委員会

Point ③

児童生徒の8割以上が「自分には良いところがあると思う(どちらかといえば思う)」と回答しています。
「**自己有用感**」「**他者との協働**」「**挑戦心**」等と**自己肯定感**に関係があります。

*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『自己有用感』の味わえる居場所づくりの趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

自己有用感 × 自己肯定感



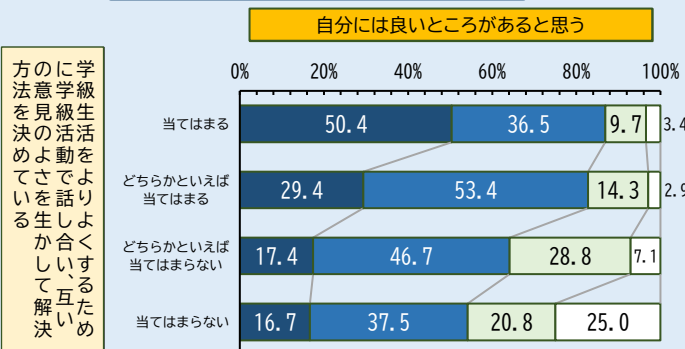
自己肯定感の向上につながる大切な働き掛け『よき見つけ』では、例えば、「〇〇係として忘れずに仲間と呼び掛けました」だけでなく、

- ◆「〇〇係として忘れずに仲間と呼び掛けたことは、**仲間を心底大切にしようとするあなたの優しさです**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間と呼び掛けたことは、**責任感のある人間の証明です**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間と呼び掛けたことで、**地道に取り組む素晴らしさを仲間に見せました**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間と呼び掛ける姿と**同じような姿を、他の場面でも見つけました**」

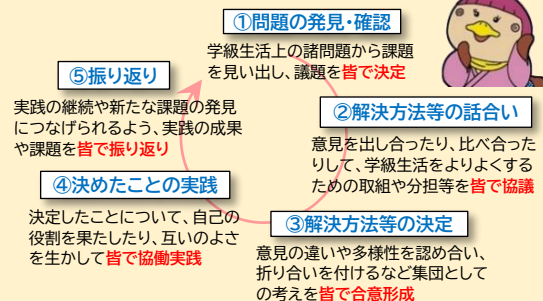
など、「事実」だけでなく、その事実の「価値」や「願い」を深掘りし、自覚するまで伝え続けていくことが大切だね。



他者との協働 × 自己肯定感

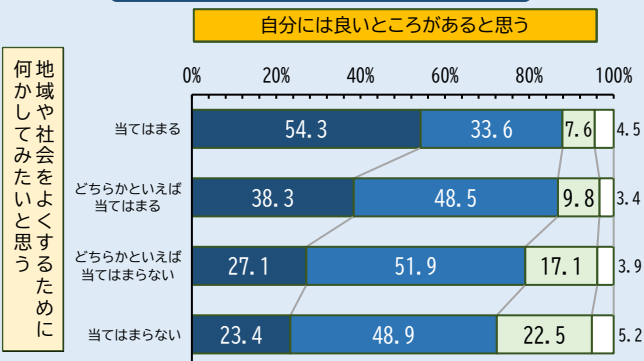


「学級生活づくりへの参画」の学習過程では、



“村度なし”“同調圧力なし”の学級風土が大切だね。

挑戦心 × 自己肯定感



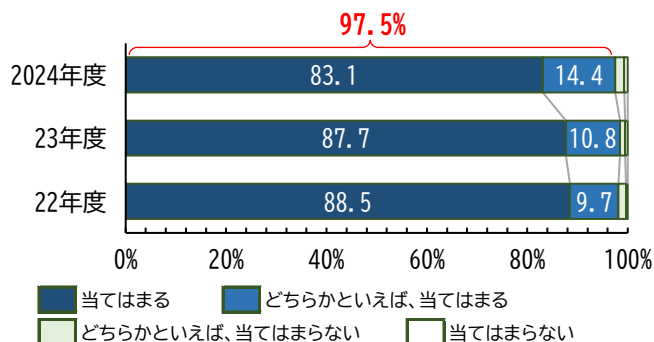
「コミュニティ・スクールだより」R5.12発行美濃加茂市教育委員会

令和4年度から、美濃加茂市の全小中学校はコミュニティ・スクールとして動き出しています。
その仕組みを活用して、**子供たちが地域や社会で貢献できる場を創っていくことも大切だね。**

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

Point ④

児童生徒の9割以上が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う(どちらかといえば思う)」と回答しています。「いじめはどんな理由があってもいけない」と**言い切れない児童生徒の想いに寄り添う**必要があります。 *R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『自己有用感』の味わえる居場所づくりの趣旨を踏まえた教育活動の取組状況



互いに広げよう「思いやりの心」

いじめによって、悲しんだり苦しんだりしている仲間はいませんか。「人として生きていく上で最も大切にすべきこと」それは、互いに思いやる気持ちです。誰もが気持ちよく通える学校にするために一人一人が「思いやりの心」を広めていきましょう。

- ▼あいさつの輪を、地域に広げます。
- ▼ネットルールを、定着させます。
- ▼環境を、美しく整えます。
- ▼仲間との絆を深めます。



R1.8.21採択 美濃加茂市あじさい小中学生サミット2019